

ようこそ！

現代詩歌の世界へ

今年、開館20周年を迎えた日本現代詩歌文学館。

全国でただ一つの詩歌専門施設として、詩歌の現在を発信しています。詩歌の森公園の一角にたたずむ文学館で、「言葉と出会う」楽しみを味わいませんか。



静

かで落ち着いた空間に身を置き、言葉の世界にゆったりと浸ることができる、日本現代詩歌文学館。明治以降の日本の詩、短歌、俳句、川柳の作品を、有名無名を問わずに全国から収集、収蔵しています。作品集、雑誌・同人誌に限らず、研究書、作者直筆の原稿や色紙、写真など、詩歌に関するものを幅広く所蔵。現代詩歌の宝庫となっています。

詩歌の本や雑誌は、全国でたくさん発行されていますが、ほとんどがごくわずかな部数しか発行されません。そのため、図書館などに収蔵されないまま所在が分からなくなってしまう、手に入らなくなる場合もあります。東京周辺の詩歌人や出版関係者の間で詩歌専門の文学館がほしいという声が上がったことから昭和

57年、文学館設立が構想されました。そして文学館を建てるのにふさわしい場として選ばれたのが、北上市。これを市制30周年を迎えようとしていた市が積極的に受け入れ、平成2年5月20日、開館しました。

設立を記念して設けられた詩歌文学館賞は、初代名誉館長である作家・井上靖氏が提唱。詩、短歌、俳句の各部門で優れた作品を表彰するもので、毎年行われる贈賞式は、詩歌の愛好者が集まる貴重な機会として定着しています。

詩歌文学館は過去の貴重な資料を集めるばかりではなく、現在、そしてこれから生み出されていく作品や資料を大切にしたいという考えを持っています。誰もが知っている詩歌人の作品はもちろん、グループ・個人で出版されるような小さな冊子な

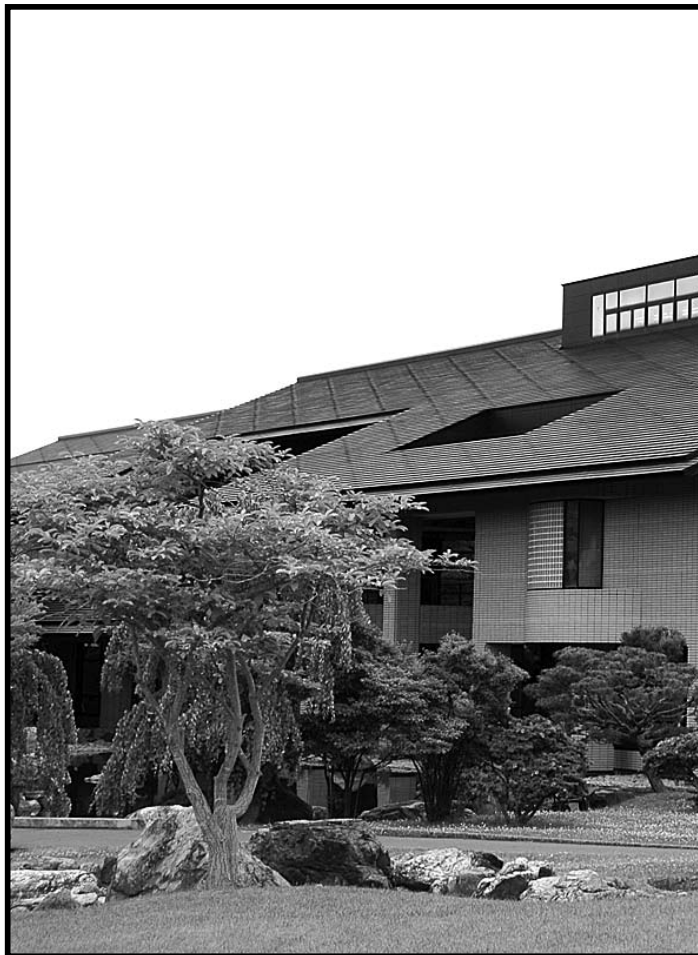


ども収集します。この基本方針は、日本の詩歌が広く一般庶民の身近な存在だという特性によるもの。「詩歌文学館に行けばすべて分かる」を目標に、全国で生み出される作品の受け皿として収集に努めています。

収集された本や雑誌などの資料は、閲覧室で見ることが出来ます。並べられているものは豊富な所蔵資料のごく一部。それ以外の資料は、カウンターへ頼めば閲覧することが出来ます。作者が分からない冊子は、コンピューター検索で探してみましよう。本を手にしたら、ガラス張りの壁に面したテーブルへ。目の前の庭園や木々が、さらに心を落ち着かせてくれます。

2階には、文学館設立の一役を担った井上靖氏を顕彰する記念室が設けられています。作品をカラクリ仕掛けで紹介するという遊び心も。小さい部屋ながら、十分に楽しめるスペースです。

展示室では、毎年一つのテーマに基づいた常設展を開催。現在活躍している詩歌人の作品が勢ぞろいするので、詩歌の「いま」に触れられる新鮮な場です。作者直筆の色紙や短冊が展示されるほか、手づくりオブジェなども置かれ、目で楽しめる工夫も。展示物から答えを見つけない子ども向けクイズラリーもあり、遊び感覚で訪れた小学生たちがクイズに挑戦する姿も見られます。



日本現代詩歌文学館は、全国で唯一の詩歌専門の総合文学館。手前の石碑には、作家・井上靖直筆の館名が刻まれています



クイズラリーに挑戦する子どもたち。常設展の展示作品に答えが隠れているので、クイズをしながら自然と詩歌に触れています。ゴールすると景品がもらえるとあって、足しげく通う小学生も

本年度の常設展は、開館20周年記念「『一握の砂』刊行100年 啄木に献ずる詩歌」。現在活躍中の詩歌人による直筆作品のほか、県内在住の美術家による造形作品なども展示。啄木をイメージした世界をつくり上げています。23年3月6日まで





詩 歌文学に触れる機会をより多くの人へ提供するため、詩歌文学館では各種講座やイベントなどを企画しています。講座では、初心者からベテランまで、各コースを用意。学生・一般向けとして短歌と俳句の入門講座、短歌の実作講座（経験者対象）を、子ども向けには詩のワークショップを開いています。講師は各分野の第一線で活躍する詩人。市民の皆さんが詩歌に親しみ、作品を作る楽しさを味わえるようにお手伝いをします。

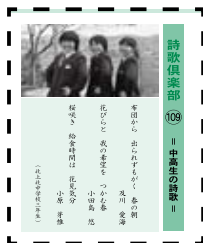
一般の愛好者が参加できるイベントとして、詩・短歌・俳句・川柳の「集い」を開催。毎年1分野ずつ取り上げ、詩部門以外の集いでは、作品の募集と優秀作の表彰を行うので、4年に一度のオリムピックのような行事です。

詩歌文学館に隣接する雑草園は、盛岡出身の俳人・山口青邨の住居と庭。平成5年、東京の杉並区から詩歌の森公園内に移築復元されたものです。青邨のさまざまな思い出が込められている自宅、三艸書屋と雑草園は、青邨文学の源泉といえるべき場所。その青邨をしのび、毎年俳句大会「雑草園祭」(北上・和賀地区俳句会連絡協議会と詩歌文学館の共催)が開かれます。毎年4月に実施しており、当日は、短冊を手に詩歌の森公園を散策する参加者にぎわいます。

全国から資料などを収集・収蔵するだけでなく、展示や講座などで詩歌に触れる場を作っている日本現代詩歌文学館。より身近な文学として、すそ野を広げるための役割を担い、活動を展開しています。



右上／俳句入門講座で行われる屋外授業。自然を題材に詠みます 右下／こどもの詩のワークショップ。ことば遊びをしながら、作品づくりに挑戦 中央／広報きたかみで紹介している「中高生の詩歌」コーナーが、紙面を飛び出し館内に登場。生徒直筆の作品が見ものです



広報きたかみ「みんなの広場」



左から／書庫には全国から寄せられた多くの資料が保管されています／第25回詩歌文学館賞贈賞式で表彰される俳句部門受賞者・星野麥丘人(ばくきゅうじん)さん／仕掛けが楽しい井上靖記念室／喫茶で一息いかが？6月オープンしたC-café。パソコンも使用できます

日本現代詩歌文学館

■開館時間 午前9時～午後5時
(年末年始、12～3月の毎週月曜日は休館)

■入館料 無料

☎65-1728 <http://www.shiikabun.jp>

この先に出会う 詩歌を求めて――



「ここは広くて落ち着くから、よく来るよ」

今年のクイズラリーを一番でゴールした齋藤悠星君(黒沢尻西小6年)は、週に一度は遊びに来るのだそう。展示作品の中にクイズの答えがあるため、何度も見ているうちに作品に詳しくなっていました。

学校帰りの子どもたちが度々遊びに来ることもあり、詩歌文学館が放課後の居場所にもなっています。遊びの中で詩歌文学に自然と触れる環境は、全国施設を所有するまちならではの光景と言えます。

館内で本や雑誌を読む、展示作品を見る、講座で作品づくりの技を学ぶ、大会に参加する…楽しみ方は人それぞれ。全国に誇る施設が身近な場に存在しています。言葉との出会いに期待して、詩歌文学館へぜひ足を運んでみてください。

■ようこそ！現代詩歌の世界へ(終)

夏休みは詩歌文学館で遊ぼう！ こどもの詩のワークショップ

- ▷とき…8月10日(火)午前10時(予定)
- ▷ところ…同文学館
- ▷内容…小学3～6年生を対象に、詩の作り方を楽しく学びます
- ▷持ち物…弁当、水筒、保険料100円
- ▷申し込み…7月15日(木)から同文学館へ